



# 和's YAMATO

(わづやまと)

2021  
春号

写真で楽しむ群馬の自然  
「ふじふれあい館」

日本近代経済の基礎を築いた巨人  
浜田榮一

ヤマトの技術 「高鮮度冷蔵システム」  
「ふじふれあい館」

シリーズ 群馬の芸術家 「猪川康太郎」

郷土史跡めぐり 「三津屋古墳」

歴史家 安藤優一郎氏

『スペシャルインタビュー』

日本近代経済の基礎を築いた巨人  
浜田榮一



「春の詩」6F号 須藤和之 画  
ヤマトイオトープ園にて



## 写真で楽しむ 群馬の自然 季節の花

ふじふれあい館 藤岡市藤岡2690-7

問い合わせ : ふじふれあい館 TEL 0274-22-8111  
開館時間 : 午前9時～午後4時  
休館日 : 火曜日(祝日の場合翌日)  
: 年末年始(12月25日～1月7日)

ふじふれあい館は、藤の花をテーマにした公園です。約2.3haの園内には、全長約250mの藤棚や、45種類の藤が植えられた見本園があります。紫色の藤の花をはじめとして、白やピンクの花や、様々な形の藤の花が咲き、4月下旬～5月上旬に見ごろを迎えます。

写真 「ググっとぐんま写真館」から転載

須藤 和之 Kazuyuki sutoh プロフィール

1981年 群馬県前橋市生まれ

2005年 多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒業 2007年 東京藝術大学大学院 美術研究科 文化財保存学専攻 保存修復日本画修了 2010年 同大学大学院 保存修復日本画博士課程修了 博士号取得 博士審査展 お仏壇のはせがわ賞特別賞 個展(画廊翠巒)(同2011～20) 2011年 中央電機商会カレンダー原画(2011～21) 2013年 アーツ前橋開館記念展「カゼイロノハナ・未来への対話」出品、群馬銀行創立80周年記念 収蔵作品「群馬の四季」制作、慶應義塾大学非常勤講師(2013-2020) 2014年 個展(日本橋三越本店) (同2017,20) 2017年 群馬県展 県知事賞 2016年 個展(株式会社ヤマト) 2019年 高崎市タワー美術館トップランナーIII出品 2020年 上毛芸術奨励賞受賞 現在 日本美術院院友

表紙の絵 「春の詩」(ミツマタとミズバショウ)

和's YAMATO

春号 2021 (第48号)

【和's yamato】の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water&Air の頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。

ヤマトが発信するメッセージです。和's YAMATO 春号 2021年(令和3年)3月発行

発行: 株式会社ヤマト (広報室) 群馬県前橋市古市町 118 tel:027-290-1891 fax:027-290-1896

建設プロダクト ヤマト

株式会社ヤマト 群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

支店 / 東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所 / 軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀、青森  
附属施設 / 大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター、プロダクトセンター  
ヤマトホームページ [www.yamato-se.co.jp/](http://www.yamato-se.co.jp/)



# 日本近代経済の基礎を築いた巨人 渋沢栄一

SPECIAL  
INTERVIEW

前編

歴史家

安藤 優一郎 氏

## —社会の理不尽さに怒りを覚える

渋沢栄一は、天保十一年（一八四〇）に現在の埼玉県深谷市血洗島の農家に生まれました。幕末の二十代は攘夷・倒幕計画に加担するものの、計画が頓挫した後は一橋家（当主・徳川慶喜）家臣となり、慶応三年（一八六七）に西欧の先進諸国を歴訪。明治二年（一八六九）二十九歳で明治政府の大蔵官僚となり、明治六年（一八七三）十三歳で退官し、経済界に身を投じます。青雲の志を抱いた渋沢栄一の生涯について、歴史家の安藤優一郎氏にお話しを伺いました。

（インタビュー構成：木下直也）



渋沢栄一肖像写真(渋沢栄一記念館)

を強く持つようになります。

渋沢は書物に親しむとともに、剣術も好きでした。単に武士になりたいと思うだけではなく、渋沢の代表作の「論語と算盤(そろばん)」でも語っているように、国政に参画したいという政治家への願望がありました。渋沢は実業家としてのイメージが強いですが、若き頃は政治家を志していました。その志が攘夷という政治運動に身を投じる原動力となつたのです。

栄一の頭は、世の中を変えてやる、という尊王攘夷の思想に支配されています。そんなある日、渋沢家は、血洗島を支配する代官から、横柄な態度で御用金を上納しようと迫られました。身分が違うので、渋沢家は拒否できず従うのですが、受けとるほうが威張つてゐる。栄一はそれを理不尽に感じ、憤慨するのです。結局、農民だから見下されるのであって、武士になりたいという願望

## —尾高惇忠の影響を受ける

血洗島村の隣村にいた尾高惇忠は渋沢栄一の従兄にあたる人物です。栄一は少年時代からこの惇忠のもとに通い、論語をはじめとする多くの学問を学びました。尾高家は血洗島村の隣村（下手計村）の名主で、裕福な家でした。尾高家の惇忠と弟の長七郎は、尊王攘夷の志士たちと交流があり、尾高家の屋敷は尊王攘夷運動の活動拠点だったのです。長七郎は、儒学者の海保漁村（かいほぎよそん）の塾に入つて学問を学ぶ一方、伊庭軍兵衛（いばぐんべえ）の心形刀流（しんぎょうとうりゅう）道場にも

通つて剣術修行に励み、剣術の腕前も確かでした。栄一のような血氣盛んな青年たちを集め、江戸の様子や国内の情勢を熱く語つていたのです。

栄一は長七郎の話に刺激を受けます。江戸で志士として活動する長七郎が羨ましく、栄一は、父に自分も江戸に出て学問をしたいと懇願するのですが、栄一の真意を見抜いていた父は、許してくれませんでした。しかし、自分は長く江戸にいるつもりはなく、農閑期に少しだけ学問をしたいのだと粘り強く説得し、父はついに根負けして江戸に行くことを許すのです。



渋沢栄一アンドロイド(渋沢栄一記念館)

渋沢栄一の風貌を忠実に再現している。  
同館の講義室で、渋沢栄一アンドロイドの講義を聴くことができる。  
渋沢栄一記念館：埼玉県深谷市下手計1204 TEL.048-587-1100

行商で各地を訪れているうちに、尊王攘夷の思想を持つ豪国の志士と交流を持つようになり、啓蒙されていったのです。栄一が社会問題を考えるきっかけになつたのが、行商だったのです。豪国の志士との交流が深まるにつれ、社会の理不尽さに怒りがこみ上げてきて、「こんな世の中にしたのは誰だ」となつたとき、幕府を倒せ、という話になつていのです。栄一が10代後半の頃です。今この言葉でいうとスイッチが入つて、徐々に過激な人になつていくのです。

尊王攘夷の過激な思想を強くしてゐる栄一の元に、老中の安藤信正襲撃計画の情報が入つてきました。栄一は襲撃に加わるかどうか思案します。この襲撃計画は、文久二年（一八六二）一月十五日に江戸城坂下門で安藤の登城行列に切り込み、安藤を負傷させた「世にいう「坂下門外の変」です。この襲撃によつて、井伊直弼が暗殺された「桜田門外の変」に続き、幕府の権威は大きく損なわれたのです。思案の結果、栄一たちは安藤襲撃計画に参加しなかつたのですが、その後、はるかに過激な計画を思いつきます。それは、横浜の外国人居留地を焼き討ちにし、手当たり次第に外人を切り殺してしまおうという、無謀な計画でした。



渋沢栄一生誕地に建つ旧渋沢邸「なかんち」

明治28年（1895）築。渋沢栄一が帰郷した際に立ち寄った。群馬県指定史跡  
アクセス：深谷市血洗島247-1  
（JR深谷駅からタクシーで約20分）  
お問い合わせ：渋沢栄一記念館  
TEL 048-587-1100



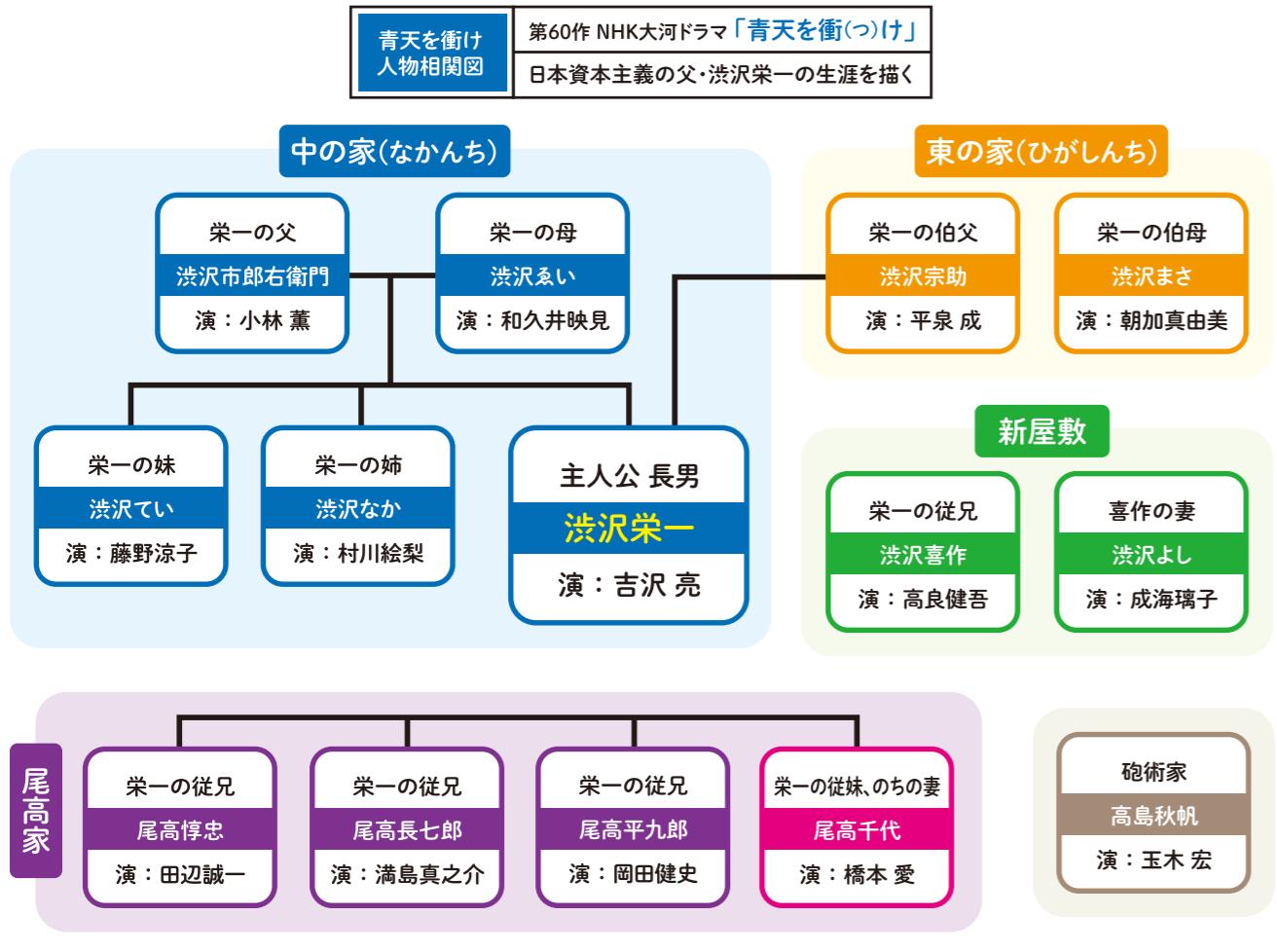
主屋(渋沢栄一記念館)



藍玉(渋沢栄一記念館)

—高崎城の襲撃計画

横浜の外国人居留地を襲うために、まずは高崎城を奪取して武器を手に入れようと考えます。城には刀や槍、弓や鉄砲などが大量に収蔵されているので、奪おうという計画です。武装蜂起ですね。栄一たちが江戸で知り合い同志となつた団は、「慷慨組」と称しますが、わずか六十九名です。」のような少人数ではないのですが、栄一は実行に向けて一心不乱に邁進し、挙兵の日を文久三年（一八六三）十一月十二日に定めます。この時、上野国・赤城山でも挙兵の計画がありました。儒学者の桃井儀八（もものいぎはち・号は可堂）が首謀者で、その背後には京都で孝明天皇の攘夷親征計画を進める長州藩がいたのです。



JR栄一記念館)

横浜の外国人居留地を襲つたために、まずは高崎城を奪取して武器を手に入れる考え方です。城には刀や槍、弓や鉄砲などが大量に収蔵されているので、奪おうという計画です。武装蜂起ですか六十九名です。このような少人数ではないのですが、栄一は実行に向けて一心不乱に邁進し、挙兵の日を文久三年（一八六三）十一月十二日に定めます。この時、上野国・赤城山でも挙兵の計画がありました。儒学者の桃井儀八（ももいぎはち・号は可堂）が首謀者で、その背後には京都で孝明天皇の攘夷親征計画を進める長州藩がいたのです。

長州藩と尊王攘夷派公家の代表格である三条実美（さんじょうさねとみ）たちは、天皇の攘夷親征計画を立て、幕府を追い詰めようと画策していました。天皇が攘夷のために兵を率い、これに尊王攘夷の志士たちが馳せ参じて、幕府を倒そうとしたのです。この攘夷親征計画に連動する形で、幕府が置かれている江戸周辺でも倒幕勢力が幕府打ちに立ち上がるという図式です。

ところが、この長州藩が、八月十八日の政変で京都から追放されてしまいます。天皇の攘夷親征に反対する薩摩藩、会津藩による、朝廷を牛耳る尊王攘夷の公家と長州藩を追放しようとの画策です。天皇も薩摩、会津藩の主張を認めたため、長州藩は御所から締め出されたのです。

江戸時代後期に惇忠の曾祖父が建てたといわれ、惇忠や栄一らが高崎城襲撃計画を謀議したと伝わる部屋が二階にある。（深谷市市指定史跡）アクセス（深谷市下手計236）JR深谷駅からタクシーで約15分

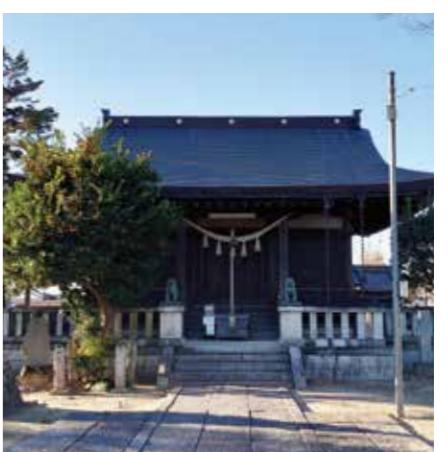
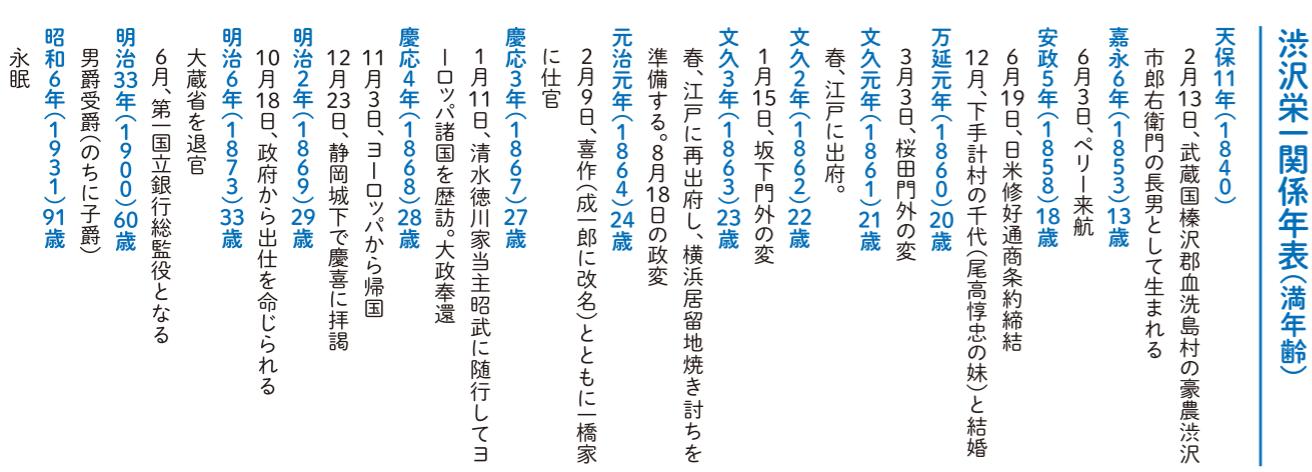
お問い合わせ…浅沢栄一記念館

出されました。長州藩の後ろ盾がなければ、尊王攘夷の志士が幕府にかなうわけがありません。そうした中でも、大和の天誅組は決起しますが、幕府軍に潰滅させられます。

栄一たちの挙兵計画に加わっていた尾高惇忠の弟・長七郎は、京都に行き、情勢を探つていましたが、十月二十五日に郷里に戻り、八月十八日の政変から、尊王攘夷の志士たちの挙兵失敗までの経緯を伝えたのです。長七郎は、挙兵は無謀で、中止すべきと訴えます。栄一は、天下の志士の魁として挙兵するので、たとえ敗れたとしても今回の挙兵を受けて天下の同志が奮起し、幕府滅亡に追い込むはずで、一死をもつてことを成し遂げる覚悟だ、と譲りません。長七郎は、挙兵に失敗し、尊王攘夷の志士では無く、盜賊として処刑されてしまう念だ、と説得し、一人は夜を徹して論じ合いました。

(次号に続く)

永眠



## 諏訪神社

# 三津屋古墳

公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 副事業局長

桜岡 正信

## 全国的にも珍しい八角形墳の発見



群馬県は、東日本最大の太田天神山古墳が存在するだけでなく、古墳の数も東日本で一番目に多い古墳大国です。

前方後円墳をはじめとして、前方後方墳、帆立貝形古墳、円墳、方墳と、基本的な形の古墳はほぼすべて確認されていますが、こうした良く知られた形ではない古墳があることをご存知でしょうか。それが、北群馬郡吉岡町大字大久保字三津屋にある三津屋古墳で、群馬県内では確実な例が1基しか確認されていない正八角形の平面形を持つ八角形墳です。

八角形墳という古墳は、全国でも10例ほどしか確認されていない極めて珍しい古墳で、近畿では東京都多摩市の稻荷塚古墳など少数例が知られているだけです。他の例は、奈良県桜井市の段ノ塚古墳(舒明天皇陵)や中尾山古墳(文武天皇陵)、京都市の御廟野古墳(天智天皇陵)など、ほとんどが近畿地方にあります。築造された時期は7世紀中頃と考えられることから、古墳時代末のがわかりました。各辺の規模は、上段が約6m、下段が約9mで、上段と下段との間に幅6mの平坦部があり、これらの計測値から古墳の設計には、唐尺(1尺 $\frac{1}{3}$ 0寸)が使われていたと考えられています。被葬者を葬った石室は南側に開口する横穴式石室で、主軸をほぼ真北に向けています。古墳下段の石積みは、山石をほぼ垂直に積み上げていますが、上段は約60度の角度で川原石を葺石として並べています。上下段とともに角に当たる部分には大きめの石を使い角の部分を強調しており、傾斜地に築造されたことから、下段の北側を低く、南側を高く構築することで、南側の石室開口部をより立派に見せる効果を狙っているようです。

古墳の周溝は、発掘調査でもはつきりとした形では確認されませんでしたが、周溝の痕跡から一辺が12mほどの八角形に巡っていたと考えられています。

石室は、盗掘などによって壊されてしまった形の一部が残されていましたが、全長が7.5mほどの自然石乱石積の横穴式石室で、石室の前面には前庭と呼ぶ台形状の広場が設けられています。三津屋古墳の築造された時期は、副

大主やその一族の墳墓として採用されたとする説が有力なのです。

三津屋古墳は、昭和10年に県内斎に行われた古墳調査ではその存在がわからず、平成5年の宅地造成に伴う伐採作業中に藪の中から姿を現しました。古墳が立地しているのは、榛名山から利根川に緩やかに延びた丘陵先端の南に斜面した場所で、近くにはオトカ山古墳や茶ノ木古墳などの他、南下古墳群や清里長久保古墳群など多くの古墳が点在している地域です。古墳の発掘調査は、平成5年に吉岡町教育委員会によって行われましたが、調査開始当初から八角形墳とわかつたのではありませんでした。発掘調査が進むにつながって、普通であれば円形に廻るはずの墳丘表面を覆う葺石が、直線的に配列されていたことからわかつたようです。この調査の結果、墳丘は版築という技法によって2段に構築され、八角形の対角の長さが約23.8m、高さは残っていた場所で約4.5mであったこと

葬品が残っていないなかたので特定する決め手に欠けますが、設計に唐尺が使われた可能性や埴輪がないなどの古墳時代終末期の特徴があることから、7世紀後半であろうと考えられています。前述のように、近畿地方では7世紀中頃の大王の墳墓として八角形墳が採用されており、こうした地域と無関係とは考えられません。しかし、なぜ近畿地方から遠く離れた吉岡町の地に7世紀後半に突如として八角形墳が築造されたのかは大きな謎のままであります。

三津屋古墳は平成7年に県指定史跡となり、建築当時の姿に復元整備され公開されています。古墳の南側と西側には駐車場も整備され、北側からは古墳の全景を見下ろすことができます。石室の見学は、午前8時半から午後5時まで可能で、中に入るとパンフレットも置かれています。

三津屋古墳は、吉岡バイパスを元総社から渋川方面に北上すると、信号機のある交差点右手に案内表示板が設置されていますので、その案内に従って右折してしばらく走ると、住宅地の中に忽然と現れた古墳時代の異空間を体験することができます。

# 稻川 庫太郎

## 夢を叶えた美術館運営三〇年の画家

美術研究家 染谷 滋

### 妙義山麓美術館の奇跡

安中市松井田町行田にある妙義山麓美術館は、一九九一(平成三)年一〇月二五日に開館した。同じ年の五月には勢多郡東村(現みどり市)に富弘美術館が、七月には高崎市美術館、八月には勢多郡粕川村(現前橋市)に中之沢美術館がオープンしているから、本県における美術館建設ブームのようなものがあつたと言えなくもない。

### 絵が大好きなセールマン

稲川庫太郎は戦争最中の一九四三(昭和一八)年二月二四日に高崎で生まれた。一九五九(昭和三四)年県立高崎商業高等学校入学。子どもの頃から絵を描くのが好き

は大変な経費が掛かり、どれ程大勢の来館者があつても、入場料だけで採算を取ることなど絶対に不可能だ。したがつて、この美術館が個人の力だけで今年開館三〇周年を迎えることは、奇跡と呼んで間違いないだろう。その奇跡を日々生み出している人物こそ稲川庫太郎である。

### 創元会を舞台に制作

その一方で好きな絵も描き続けた。就職した翌年には群馬県美術家連盟展で『下町』が連盟賞を受賞した。一〇歳の青年の快挙だ。黒っぽい絵の真を何層にも重ねた重厚な作品で、初期の稲川作品を特徴付ける。ヤマトが所蔵する『下町』(一九七六年)もこのシリーズに属する作品だ。

稲川には四人の師がいた。高商からの町田洋二、その師で後に日展評議員にまでなる前橋出身の深谷徹、町田と同様年齢で高崎の中學で美術教師をしていた櫛田弘義、出会った当時既に日展評議員で大家となっていた福岡出身の田中繁吉である。

四人に共通するのは創元会という中央の団体に所属していることと、後に創元会会长を務める田中繁吉は戦前からの会員、戦後になって深谷、櫛田、町田が順次会員となつていた。

従つて稲川も創元会へ出品することになり、当初の画風は深谷に近似していた。その頃は町田の画風も深谷と似た風景画だったので、若い稲川には人物を描く櫛田が教えた。稲川は高崎で教えを受けながら、さらに上を目指して東京の田中家にも通つた。

稲川は創元展で次々と受賞するだけでなく、一九六四年(昭和三九)には早々と二歳で日展にも入選、一九七一年(昭和四六)には創元会会員に推举された。

### 格子シリーズの開眼

稲川作品のトレーデマークとなつたのは格子のシリーズである。一九八二(昭和五七)年の日展に入選した『異旅人』がその始まりだが、その前年に日本海の荒海を取材した際、あまりの寒さに小屋の中から扉越しに描いたの

だつた稲川は、迷わず美術部に入り、やがて部長を務めるほど絵に夢中になった。

その当時の高商の美術教師は町田洋二。九八歳となつた今も絵を描き続いている本県洋画壇の至宝と呼べる存在だ。町田の指導でこの時期の高商からは多くの画家が生まれ育つた。

高商時代の稲川は、近隣の七つの高校美術部と連合して高校美術連盟を作り、合同展を開催した。この頃から、トヨタ自動車(株)の面接では、高商から三〇名前後の希望者が居てとても無理だと思つたが、部屋に掛かっていた絵を眺めていたら、面接官に絵の好きな人が居て話しが合つた。

一九六二(昭和三七)年春、群馬トヨタ入社。最初は経理の仕事で銀行を回つた。その後販売の仕事に転じ成績を上げていった。セールスの仕事は成績に応じて給与が良くなるが、このままだと社長より高給取りになると冗談を言われるほど働いた。

絵が好きな先輩の多くは武藏野美術大学などへと進学したが、稻川は父親の希望で就職の道を選んだ。群馬トヨタ自動車(株)の面接では、高商から三〇名前後の希望者が居てとても無理だと思つたが、部屋に掛かっていた絵を眺めていたら、面接官に絵の好きな人が居て話しが合つた。

### 仕事を辞めて美術館設立へ

黒く枠取られた格子が、窓の外の世界への興味を強め、歩き去つたり立ち止まつたりしている人物が、声の聞こえないドラマを演じているかのような興味を引き立てる。人物に使われる色彩も効果的で、大胆な構図の中に繊細さも感じさせる。

#### 風景画でも人物画でもないこのシリーズは、まるで映画のワンシーンのように印象深い。



1982 異旅人

### 略歴 稲川庫太郎 KURATARO INAGAWA

1943	2月24日、高崎市に生まれる
1963	第13回群馬県美術家連盟展で連盟賞受賞
1964	第23回創元展で創元会次賞、翌年柏賞連続受賞
1966	第7回日展に初入選、以後度々入選
1971	第30回創元展で会員推举
1972	高崎スズランで個展
1973	銀座・銀彩堂画廊で4年連続個展
1974	第33回創元展で会員賞 鈴木千久馬賞受賞
1975	銀座の造形展で特選受賞
1981	フランスのル・サロン展で優秀賞受賞
1983	第42回創元展で会員新人賞受賞
1986	モナコのモンテカルロ現代芸術国際グランプリ展入選
1987	上毛芸術奨励賞受賞
1989	第48回創元展で会員優勝受賞
1991	『稻川庫太郎作品集』刊行
1991	10月25日、妙義山麓美術館開館
1994	美術館の運営に専念するため創元会を退会
1999	翌年の年賀はがきに稲川の描いた妙義山が採用
2021	妙義山麓美術館開館30周年

だつた稲川は、迷わず美術部に入り、やがて部長を務めるほど絵に夢中になつた。

その当時の高商の美術教師は町田洋二。九八歳となつた今も絵を描き続いている本県洋画壇の至宝と呼べる存在だ。町田の指導でこの時期の高商からは多くの画家が生まれ育つた。

絵が好きな先輩の多くは武藏野美術大学などへと進学したが、稻川は父親の希望で就職の道を選んだ。群馬トヨタ自動車(株)の面接では、高商から三〇名前後の希望者が居てとても無理だと思つたが、部屋に掛かっていた絵を眺めていたら、面接官に絵の好きな人が居て話しが合つた。

一九六二(昭和三七)年春、群馬トヨタ入社。最初は経理の仕事で銀行を回つた。その後販売の仕事に転じ成績を上げていった。セールスの仕事は成績に応じて給与が良くなるが、このままだと社長より高給取りになると冗談を言われるほど働いた。

絵が好きな先輩の多くは武藏野美術大学などへと進学したが、稻川は父親の希望で就職の道を選んだ。群馬トヨタ自動車(株)の面接では、高商から三〇名前後の希望者が居てとても無理だと思つたが、部屋に掛かっていた絵を眺めていたら、面接官に絵の好きな人が居て話しが合つた。

一九六二(昭和三七)年春、群馬トヨタ入社。最初は経理の仕事で銀行を回つた。その後販売の仕事に転じ成績を上げていった。セールスの仕

